

少年の主張

平成21年度 最優秀賞

もう一つの コミュニケーション



八百津東部中学校 3年 藤本圭悟

僕が通う八百津東部中学校では、伝統の一つとして「合唱」を大切に、日々練習に励んでいます。全校で、学年で学校行事や地域行事の際には、積極的に発表をしています。

そして、昨年度は卒業された先輩の「積極的に、誰とでもコミュニケーションを取ることができるように…」という願いがきっかけとなり、その一つの方法として、全校生徒48名で新たに「手話合唱」に取り組み始めたのです。僕はその時、生徒会執行部の一員として先輩の取り組む姿を見ていました。

そして、今年度、僕は生徒会長となり、その願いを引き継ぎ、「手話合唱」を八百津東部中学校の新たな伝統として根付かせていきたいと考えています。

「手話合唱」では、歌に込められた思いを歌声でなく、自分の手で表現をし、聴いてくださっている人達に思いを伝えることができるので、とてもすごいことだと思っています。だから、僕自身も「合唱」と「手話」を楽しんでいます。

僕にとって、「手話」との出会いは、小学生の頃でした。母が手話サークルに参加をしていたからです。そのため、今でも手話での簡単な自己紹介の仕方を覚えています。

「<手話にて>僕の名前は、藤本圭悟です。」

その他にも、歌に合わせての簡単な手話を習ったことがありました。しかし、その頃は、手話に興味は持っていたけれど、一緒に参加していた同級生と遊んでばかりいました。

でも、2年生の時に、母が耳の不自由な方と手話でコミュニケーションを取っていた姿を見た瞬間、驚き、「手話で会話をしたい。」と思いました。

だから、東部中学校での「手話合唱」の取り組みが始まったことと、母の手話をする姿を見たことから、僕は手話に前向きに取り組んでいこうと思うようになりました。

「手話」をするうえで大切なのは、「表情」です。しかし、今はパソコンや携帯電話でのメールが普及し、とても便利になっています。僕もメールすることがありますが、自分の思いを正確に伝えること、表現することが難しいときがあります。相手の顔を見ずに、相手の声の調子を聞かずに気持ちを伝え合おうとすれば、すれ違いや誤解を生みかねません。

けれども、手話は大きな動作や表情で、相手に気持ちを伝えやすいのです。僕は、手話のようなコミュニケーションの取り方が、本当の意味でのコミュニケーションだと思います。今のように便利さが重視されている時代だからこそ、自分のコミュニケーションの取り方、伝え合う言葉を見直すチャンスなのだ、多くの人に知ってもらいたいです。

表情も「言葉」と同じなのです。例えば、「ありがとう」という感謝の思いを伝える言葉。この言葉を眉間にしわを寄せて強い口調で言ったとしたらどうでしょう。少しも「ありがとう」本来の気持ちが伝わってきません。「言葉の意味」や「声の調子」、そして感情を込めた「表情や動作」の3つがそろってこそ、コミュニケーションなのです。

僕達東部中の「手話合唱」は、スタートしたばかりです。まだまだ手話の手の動きに集中するあまり、必死な顔でやっていたり、歌声が小さくなってしまったりと、課題は多いです。けれども、手話合唱の練習をしている時には、たくさんの笑顔があります。手の形の意味がわかったり、伴奏に合わせて手話ができたりした時は全員が喜びの声を上げ、体いっぱいうれしさを表現しています。

僕は今年、生徒会長として全校生徒が「手話合唱」ができるよう、そして、いろいろな行事で発表することによって、少しでも「手話」の力を伝えることができるように頑張ります。そして、「手話合唱」を東部中の新たな伝統として根付かせていきたいです。